

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気回路 I (集中)						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 必修科目(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・電流・電圧など、電気回路で使用する電気基礎量についての知識を得る。(A6,A7) ・キルヒホッフの法則を理解し、電流平衡式・電圧平衡式を正しく記述することができる。(A7) ・オームの法則を理解し、直流電源と抵抗素子のみで構成される回路を解析することができる。(A7) ・合成抵抗や合成コンダクタンスの計算ができる。(A7) ・電力を理解し、簡単な電力の計算ができる。(A7) 						
日程と内容	第01回(09/24) : キルヒホッフの法則、オームの法則、合成抵抗と合成コンダクタンス、電力 第02回(10/01) : 回路方程式 第03回(10/15) : 重ねの理、テブナンの定理、ノートンの定理、電源の変換、最大電力 第04回(10/22) : 演習と質問 第05回(10/29) : 単位認定試験 第06回(11/12) : 単位認定試験 第07回(11/19) : 単位認定試験 第08回(11/26) : 単位認定試験 第09回(12/03) : 単位認定試験 第10回(12/10) : 単位認定試験 第11回(12/17) : 単位認定試験 第12回(01/14) : 単位認定試験						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	再履修科目なので、通常と同じように授業、演習、試験と進めたのでは、効果がない。最初の3回で復習をし、単位認定試験を繰り返す手法を用いた。その結果、71%が合格できた。不合格者の中には、単位認定試験を1回しか受験していないような場合も含むので、繰り返し問題を解くことで、確実に授業到達目標を達成している。一部、すべてまたはほとんどの試験を受験したにもかかわらず不合格になった学生もいるが、彼らについては、やはり学力不足を根本から解消してやらなければならないと感じている。						
反省点	再履修科目の実施方法として、今の手法を変更する予定はない。再履修科目で真面目に出席したにもかかわらず不合格になる学生は、学力不足根治のプログラムを提供する必要がある。						
来年度の計画	再履修科目の実施方法は、今年度同様とする。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均値(8.2)はさておき、6以下が32名中4名である。彼らにとっては、単位認定試験ばかりでは点数の取りようがないということかもしれない。						
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	62名	合格者数	44名	合格率	71%